

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774501171		
法人名	社会福祉法人 常茂恵会		
事業所名	グループホーム ラポート		
所在地	大阪府泉佐野市長滝3735番地の1		
自己評価作成日	平成25年6月20日	評価結果市町村受理日	平成25年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活ができることを第一に考え支援しています。居室内は木製のベットを独自に用意し、起き上がりや立ち上がり自立出来るよう工夫しています。又トイレ内の手すりも立ち上がり自立出来るよう工夫されています。日常生活において、手作りの食事を提供し、入浴を楽しんで頂く、ごく普通の生活が送れることが大切なことだと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは泉佐野市のほぼ真ん中に位置し、交通の利便は良い。木造建てで、共用空間や居室は木のぬくもりを感じる。同法人の経営するデイサービス、ヘルパーステーション、ケアプランニングセンター等が隣接し、お互いに交流し合っこのあたり一帯が地域福祉そのものという感じを受ける。法人の経営理念は施設名の通り、「より良いケアは、受けるものと提供するものとの間で信頼関係が必要である」という考え方であり、職員もその様に励んでいる。1月から12月まで毎月ごとに年間行事を組み、利用者に季節感を感じてもらいつつ楽しんでもらっている。又、食事については、グループホーム以外の事業所は配食業者を利用しているが、グループホームのみ利用者の意向を汲んで法人の管理栄養士が献立を立て、職員がそれに合った食材を購入し利用者向けに味付けをして調理している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の視点に立ち、入居者様の生活を日々振り返り、これで良いのかと常に自分達に問いかけながら職員は頑張っています。	法人の理念の一節「人権と福祉をテーマとして地域福祉の一翼を担い、すべての人の人権を守る」を取り、当ホームの経営理念としている。この理念の通り人権研修を徹底し、職員は利用者と信頼関係を築くべく努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスセンターに合流し、レクレーションを楽しんだり、保育園での交流会に参加したりと地域とのつながりを大切にしています。	利用者も年々ADLが低下し、地域行事への参加は困難になりつつあるが、田植えや稲刈りを見物したり、幼稚園児や小学生とも交流して楽しんでいる。カット美容のボランティアも活用している。地域の認知症高齢者のケアの相談にもものっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症講座等に積極的に参加しています。又職員も講座等に参加し、サポーターとして活躍できるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設での取り組みを紹介頂いたり、助言頂くことで、サービス向上に努めています。	毎年奇数月の20日前後に開き、市介護保険課や地域の民生委員の出席を得て、既に年6回開催できている。しかし、メンバーとして不可欠な利用者や家族の出席が殆んど無い。	年6回メンバーを調整して開く努力は大いに評価できるが、肝心の利用者や家族の参加も得られるよう努力することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例や他市からの入居希望者など、内容により頻回に市町村と連絡を取り合っています。助言をいただく中でより良い方向へ進めるよう協力をお願いしています。	困りごとの相談や各種情報を得るため、市介護保険課や生活福祉課、コミュニティソーシャルワーカーとはよくコンタクトが取れている。その他、市グループホーム連絡会に行政も参加してくれ、アドバイス等をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取り組んでいます。施設の立地条件等で玄関を施錠していますが、圧迫感を感じないよう努めています。	この建物の玄関は安全上施錠せざるを得ないが、閉塞感を与えない様見守りケアを徹底している。但し、エレベーターを使って1~2階の出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	少人数での職員体勢であるため、常に職員間で意識しています。身体に異変があれば原因を話し合い、解決しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの重要性を認識し、研修を重ねるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問題が生じればすぐに話し合うなど充分納得頂けるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内には意見箱を設置しています。又訪問時には充分話しやすい環境であるよう努力しています。その中で意見が出れば市町村や運営会議等で助言を頂いています。	利用者とは何でも話し易い雰囲気を作り、何気ない会話から汲み取る努力をしている。家族からは来訪時に伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の不満や意見に耳を傾け、解決のため代表者と常に話し合いをしています。職員ミーティングでは意見が言いやすい環境作りに努力しています。	毎月開く職員ミーティングで、個別ケアの相談かたがた運営に関する職員の意見を聞き出している。週1回、法人の経営する各事業所の主任会議があり、運営に関する意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の置かれている環境や状況を把握し、もつmだいが生じれば必ず面談し、解決出来るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士を中心にケアのあり方をその場で相談し合い、より良いケアのため努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会に参加し、出来るだけ勉強会等に参加できるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴の情報収集を行い、入所以前から関係が持てるような機会を持ち、不安軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の希望には必ず応じています。聞くことを大切に、家族の思いを受け止められるよう日々努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の都合に合わせることなく、本人、家族中心に考えていくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは長く続けられるよう支えし、共に暮らしている家族に近い関係になれるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り報告、面会時の状況の説明など、機会があるごとに交流の場が持てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた近くの散歩や、買い物等継続的な生活が送れるよう支援しています。現在は車いす使用の方が増え途絶えている状況になっています。	昔馴染みの友人・知人がたまに面会に来られるので、丁寧に應對しその面会を支援している。隣接のデイサービスにも馴染みの人がいる。馴染みの場所としては、自分の田畑や海釣り場があり、個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで集える機会を増やし、比較的仲良く生活が出来ていると思います。孤立することが無いよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院での契約終了が主ですが、お見舞いに出かけたり、家族からの相談事をお受けしたりを継続的なお付き合いをおこなっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入浴、食事、排泄、睡眠とごく普通の生活の中でも本人らしさが尊重されるよう支援しています。	最初のアセスメントで本人の生活歴を把握し、これからの暮らし方の希望や要望を聞き出している。そして信頼関係を構築し、入居後も本人の意向を介護記録やケース記録に記入し、ケアプランの変更に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の聞き取りでは見えてこない生活歴等を本人の何気ない言動を聞き逃さず、サービスにつなげることが出来るよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、介護記録、夜間日誌等、重複する事柄を記入する方式にしています。より分かり易く、職員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを計画に反映し、現状に即した計画として作成しています。	職員ほぼ全員が参加してケアカンファレンスを開き、本人本位のケアプランを立てている。ホーム独自のモニタリング表でモニタリングを実施し、6ヶ月に1度はケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、介護記録、夜間日誌等、重複する事柄を記入する方式にしています。より分かり易く、職員が把握し、情報が共有できるよう工夫しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険外のサービスも必要に応じて対応しています。緊急時の通院等柔軟に施設独自のサービスとして対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めています。活用はなかなか難しいですが今後の課題です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院をかかりつけ主治医としている方が多くいます。隔週での往診とご本人の様子がいつもと違うときには都度連絡、相談し、助言を頂く等の関係を築いています。	今迄のかかりつけ医を希望する利用者は、入居後も継続して往診を依頼している。大半の利用者は協力医療機関の医師による隔週往診と毎週の歯科訪問により、必要に応じて適切な治療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の有料老人ホームやデイサービスセンターの看護職員と連携し支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず同行し、お見舞いを含め状況把握に努め、病院相談員や看護職員と連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、職員が密に関わり、医療面からの助言や医療方針を基に介護のあり方を話し合い実践しています。	看取りについては特に表明しておらず現在検討中である。事業所が対応し得るケアについて了解を得た上で、家族と医師による話し合いと合意に基づき、職員は医師の指示を仰ぎ支援する立場を取っている。	入居時に利用者に対して重度化した場合の対応について説明をし、了解を得て重度化や看取りに関する指針、同意書を作成することが望まれる。更に全員で方針を共有した上で、職員の研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加するなど努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行うことにより、職員がその場の判断が出来るよう努めています。地域の協力体制は難しく、今後の課題です。	消防署の指導の下、夜間、喫煙場所から出火想定の実施した。その結果「知らせる、消す、逃げる」の基本的な動きや反省点を見出し、これらを次回に活かすべく心がけている。備蓄品の準備は整備している。	運営推進会議を活用して、災害に備えての話し合いをもち、訓練に地域の方々の参加を得られる様に理解を求め、協力体制を築いていく事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権研修の中で人格、人権の尊重を意識し、日々努力しています。	法人全体の人権研修を実施して、日々の介護現場に於いて、利用者を尊重した対応を心がけている。耳の間こえにくい利用者には、大声を出す前に身振り手振りで口を大きく開けて、分かり易く話す工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人らしさを尊重できるよう、言葉かけ等失礼のないよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや希望等を考慮し、入浴や食事も含め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服装など、多くの希望が反映されるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を布巾で拭く程度の協力はお願いしている。本人の嗜好が反映されるよう支援している。	毎朝、食材の買い出しに行き、全て手作りである。法人の栄養士が献立を作成しているが、利用者の状態に応じて、好みの物を取り入れる等の工夫をしている。利用者が参加可能な作業は職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を参考に調理しています。水分量も十分確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせ、日々支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう、職員は誘導しています。排尿、排便の失敗が減っています。	居室9部屋に対してトイレが5つあり便利である。排泄チェック表からパターンを把握し、定時誘導を行い、自立支援をしている。利用者の様子により個別対応の結果、尿意、便意を訴える様になり改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜嫌いの方が多く、食べやすい形での調理を心がけています。又排泄のリズムを把握し、時には薬の使用も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、基本入浴日を決めていますが、本人の状況や希望に合わせ、柔軟に対応しています。	入浴は基本的に週三回、個浴でゆっくりと気持ち良く入ってもらうが、利用者の状態により毎日入浴することもある。入浴拒否の利用者も時間を変更する等の工夫により、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の生活リズムを把握し、充分休息が確保されるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が確認し、副作用に関しても、わからなければ調べるよう努力しています。病状に変化があれば医師に報告し、服薬の変更をお願いしたり連携調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎後新聞の広告を見ながら、食べたいものや昔好きだった物等お話ししながら、気分転換を図っています。希望のメニューを採用することもあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の保育園での交流会へ出かけたり、デイサービスセンターで1日過ごしたりと、希望があれば叶える形で支援しています。	車椅子の利用者は、天気の良い日には事業所周辺の散歩を楽しんでいる。同法人のデイサービスや保育園に出掛けたり、園児を招待するなどの交流を持ち、希望があれば地域に出掛けられる様に支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度持っておられる方もいらっしゃいますが、基本的には難しい状況があり、今後の課題です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話等は支援しています。声を聞くことで安心できるよう、又携帯電話をお持ちの方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは食堂も兼ねています。落ち着ける環境作りに努めています。消防の指導により廊下幅を確保等の基準があり、十分な家具等の配置が難しく、季節感を感じていただけるよう、職員の手作りの壁画等で対応しています。	ホールの周辺は高速道路や田んぼ、新興住宅地が広がり、穏やかな採光がある。ホールの食卓は3卓あるが、それぞれ高さが異なり、椅子も食卓に合わせて調節する等の工夫をしている。壁面には多数の動物写真を貼り、七夕には願いを書いて飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに仲の良い方どうし腰掛け、世間話をしたりしているのを見受けます。それぞれの居場所は確保出来ているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ馴染みの品物も持参していただきます。新たな購入品は拒否が多くあります。居心地良く過ごせるよう助言等も行っています。	居室入口には花模様の表札と自分の好きな芸能人の氏名を書き込んでいる。好みの家具や写真を持参し、居心地よく暮らしている。利用者、家族の希望により、事務室横に布団を敷き、安心してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内やホール、廊下もバリアフリーであり、トイレ内は手すりや背もたれも設置しています。ベットも独自の物を使用し、安全に自立できる工夫があります。		